

国語科学習指導案

指導者 広島市立〇〇中学校

教諭 〇〇 〇〇

1 日 時 平成30年7月〇日 (〇) 〇校時

2 学年・組 第2学年〇組

3 指導事項 (単元の目標)

(1) C 読むこと イ

・登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てること。

(2) 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(イ)

・作品の中における様々な語句について理解し、語感を磨き語彙を豊かにすること。

4 単元名

関わりの中で 「字のない葉書」 向田邦子

5 言語活動

・父親の人物像を表すニックネームをつける。

6 単元の評価規準とめざす生徒の具体的な姿

関心・意欲・態度	読む能力	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
○登場人物の言動の描写に関心を持ち、登場人物の心情について自分の考えをもとうとしている。	○登場人物の言動の意味などについて考えたり、それをまとめたりする活動を通して、内容を理解し、父親にニックネームを付けている。	○言動を表す言葉の意味や使われ方に着目して文章を読んでいる。

7 単元に関して

○ 生徒の状況

「アイスプラネット」において、登場人物の言動から心情を読み取るという活動を経験しており、直接的な言葉で描かれる心情描写以外からも、登場人物の心情を読み取ることができるということは知識として理解できている。しかし、その知識を活用し、人物像を考えたり、作品の展開にどのように生かされているかを考えたりすることに課題がある。

○ 教材の価値

本教材は、父親にまつわる二つの思い出が描かれているが、その描き方は対照的である。前半は、父親の人柄や「私」の心情が直接的な表現で描かれている。一方、後半は、人柄や心情を直接書かずに、人物の言動や様子を描写することで表現しており、登場人物の言動や描写から人物の心情を読み取るのに適した教材である。

○ 指導の工夫

指導に当たっては、生徒が登場人物の言動や描写から人物の心情が読み取れることを想起できるよう、既習教材である「アイズプラネット」をモデルに学習活動を説明する。

登場人物の言動の意味を考える活動を行う際には、登場人物の言動から性格や心情を捉える意識をもたせるために、「感情の円グラフ」を用い、読み取った心情を可視化するとともに、考えを根拠や理由とともに語るよう指導する。さらに、終末において「父親の人物像を表すニックネームを付ける」活動を行うことで、作品全体を通して描かれる父親像から筆者の意図を考えさせたい。

8 単元の学習と評価の計画（全5時間）

◎は特に重点的に指導し評価する内容

	学習活動	関心・意欲・ 態度	読む能力	伝統的な言語文化 と国語の特質に関 する事項	評価規準・評価方法
第1時	時代背景や当時の筆者の状況等をおさえた上で本文を通読し、簡単に感想を持つ。	◎			作品を読み、自分の考えを表現しようとしている。(授業観察)
第2時	前半のエピソードから想像される父親の人物像を簡潔にまとめる。		◎	○	父親の人物像を、描写を根拠として、簡潔にまとめている。(ノート)
第3時	疎開をしている妹に対する父親の心情を考える。	○	◎	○	父親の心情を、描写を根拠として、考えている。(授業観察・ノート)
第4時	疎開している妹が帰ってきたときの父親の心情を円グラフにして、グループで交流する。 【本時】	○	◎	◎	父親の感情円グラフの割合の違いについて、父親の言動を根拠に説明している。(ワークシート)
第5時	父親の人物像を表すニックネームをつける。	○	◎		父親の言動を根拠として、父親にニックネームをつけ、その理由を説明している。(授業観察・ワークシート)

9 本時の目標

帰ってきた妹に対する父親の心情を円グラフで表し、根拠を挙げて説明できる。

10 本時の学習展開

学習活動	指導上の留意事項	評価規準・評価方法
<p>1 本時の課題を把握する (1) 本時の目標を知る。</p>	<p>・目標を示し, 学習の見通しをもたせる。</p>	
<p>帰ってきた妹に対する父親の心情を円グラフで表し, 根拠を挙げて説明しよう。</p>		
<p>(2) 前時の学習を振り返り 父親の心情を確認する。</p>	<p>・どの言動から, どのような心情を読み取ったのかを確認させる。</p>	
<p>2 根拠を示しながら, 父親の心情を円グラフで表す。 (1) 「感情の円グラフ」を書く。 (2) なぜこの割合にしたか, 根拠を挙げて説明する。</p>	<p>・例を示し, 活動のイメージを持てるようにする。 ・父親の言動を根拠として示すことを確認する。 ・例を示し, 活動のイメージを持てるようにする。</p>	<p>読むこと 評価B 自分が作成した円グラフの感情について, 父の言動を根拠に説明している。 (ワークシート・授業観察)</p> <p>評価A 自分が作成した円グラフの割合の違いについて, 父の言動を根拠に説明している。</p>
<p>3 各グループで, それぞれの円グラフと根拠に説得力があるか議論する。</p>	<p>・グループで, 円グラフと根拠に整合性があるかお互いにアドバイスをさせる。</p>	
<p>4 本時の学習を振り返る。</p>	<p>・アドバイスを参考にして, 根拠の書き方を再考する。</p>	